

▲2010年度
『殿様と私』



▲2009年度
『定年ゴジラ』



▲2008年度
『風のつめたき 櫻かな』



▲2008年度
『運命』



▲2008年度
『ニューイヤーコンサート』



▲2009年度
『オーケストラ 夢のせかい』



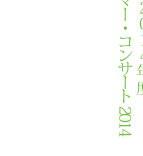
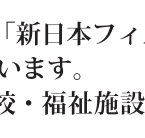
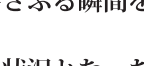
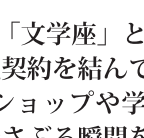
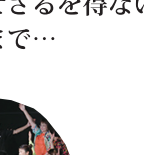
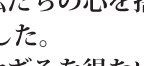
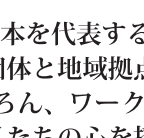
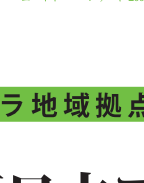
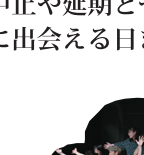
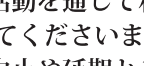
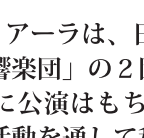
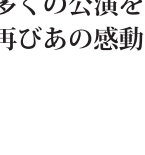
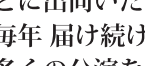
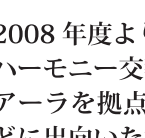
▲2010年度
『新世界』



▲2011年度
『ボレロ』



▲2012年度
『田園』



アール地域拠点契約

文学座 & 新日本フィルハーモニー交響楽団

2008年度よりアールは、日本を代表する「文学座」と「新日本フィルハーモニー交響楽団」の2団体と地域拠点契約を結んでいます。アールを拠点に公演はもちろん、ワークショップや学校・福祉施設などに出向いた活動を通して私たちの心を揺さぶる瞬間を毎年届け続けてくださいました。多くの公演を中止や延期とせざるを得ない状況となった今、再びあの感動に出会える日まで…



▼2019年度
『ニューイヤーコンサート2020』

▼2019年度
『サマー・コンサート2019』

▼2018年度
『サマー・コンサート2018』

▼2017年度
『ニューイヤーコンサート2018』

▼2017年度
『サマー・コンサート2017』

▼2015年度
『ニューイヤーコンサート2016』

▼2016年度
『サマー・コンサート「ボレロ」』



新日本フィルハーモニー交響楽団

新日本フィルからは、定期コンサートはもちろん「オープン・シアター・コンサート」や「おでかけコンサート」にも出演されたビルマン聡平さんにインタビューしました。



ビルマン聡平

〈2ndヴァイオリン首席奏者〉

可児市の皆さん、こんにちは！3～6月はコンサートが全てキャンセルになってしまい、日々届く中止や延期の連絡に落胆していた時期もありましたが、家で自分の音と向き合いながら、否応なく襲ってくる《音楽の価値とその未来》というテーマを考えさせられた日々は、災禍の中にあつてこそまたとない意義のある体験だったと言えるのかもしれません。

ビルマンさんはこれまでに何度も可児市を訪れていらっしゃいますが、心に残っているエピソードはありますか。

我々音楽家は各地への旅が多い割に、駅や空港と劇場を往復するだけで、あまりその地域のことを知らないまま終わっているというのが実情ですが、可児市には何度も行くうちに本当にたくさん思い出ができました。普段劇場に足を運ぶことが難しい乳幼児や障がいのある方、誰もが楽しめる「オープン・シアター・コンサート」には毎年参加させて頂いていますが、昨年のコンサートでのホールいっぱいに響き渡った客席の皆さんの「パプリカ」大合唱は今でも耳に残っています。また、

小学校での「おでかけコンサート」では、演奏を聴いてもらうのももちろん、子ども達に楽器を実際に弾いてもらうという確かな手応えとして感じられます。これは我々にとっては大変貴重で音楽家冥利に尽きる時間です。そして可児市に滞在中、ご飯を食べに行った数々のお店でのエピソードは、語り尽くせないほどあります(笑)。地元の音楽仲間や劇場の企画担当の方々と、どうやったらもっと良い演奏会や企画が出来るか、本気で語り合える時間も他ではそうはありません。



▲休み時間には子ども達とドッジボール



▲小学校での「おでかけコンサート」の様子

コンサートが無くなってしまった時期に、楽団メンバー同士や、個人で挑戦してみたことについて教えてください。

3月の前半頃までは、コンサートマスターの西江辰郎さんや多治見市出身の首席チェロの長谷川彰子さん等と少人数編成で音楽を作り、インターネットで配信するという活動をしてきましたが、3月中旬頃からは三密禁止でそれも出来ない情勢になってしまいました。それではと自宅に録音できる環境を作った一人ですら自分の音と向

き合い、音楽を制作する毎日でした。今となっては、演奏会が出来ないという全く想像もしなかった絶体絶命の事態になった事で、新しい表現の場を日々模索したこと自体に、とても意味があったと感じております。実際に行動してみると、新日本フィルテレワーク部の『パプリカ』の様にうまく結果に結びついて、私たちを知って頂くきっかけとなったものもありました。メンバーそれぞれが家で一人で作った音が重なり合い、完成したものを聴いたときは、そこにある全部が新日本フィルサウンドだ！と、鳥肌が立ちました。普段コンサートには出掛けない友人からも、勇気の出る応援メッセージをたくさん頂いたり、久しぶりに誰かに向かつて音楽を発する喜びを感じる事が出来ました。どこにどう結び付くか分からないからこそ、いまたくさん種を蒔いておきたい。この数ヶ月で得た色々な知識やアイデアをコロナ後も無駄にせず、これまで以上にコンサートホールでの生の音の素晴らしさを皆さんに味わって頂けるよう、頑張っていきたいと思っています。

ビルマンさんの前向きな姿勢にこちらも元気がもらえます。最後に可児市の皆さんにメッセージをお願いします。

少しずつ活動も再開していますが、まだまだ通常には程遠く、不便や不安が付きまとう毎日でもあります。今はお互いに踏ん張ってなんとか持ち堪え、来年の2月には、改修を終えたアーラ主劇場で皆さんと新日本フィルメンバーの笑顔が交差することをとても楽しみにしています。13年目に突入するアーラと新日本フィルの関係がこれからもずっと続いていく事を、心から願っています。



《新日本フィル》
テレワークで
パプリカやってみた！
ステージ上とはひと味
違う普段着姿が魅力的



新日本フィル公式HP

① 機能維持のため

- ▶ 全館の空調設備の更新
- ▶ 内外壁・床の補修、雨水侵入対策
- ▶ 舞台機構の更新

機能維持としての大きな改修は、空調設備の更新です。経年劣化に伴い十分な温度管理・調節が出来ない状況となっており、全館の空調設備を更新します。そのほか、内外壁や床の補修、屋根防水や外部シーリング(目地埋め)改修など雨水侵入対策も行います。また耐用年数を迎えている舞台機構を更新します。



アーラ大規模改修工事って、何を改修しているの？

アーラは2002年7月に開館し、今年度で18年目を迎えます。その間、幾度かあった地震、大雨、暴風、雷にも耐えて大きな影響を受けることなくここまで来ました。改修工事の話をすると、「どこを直す必要があるのか」と疑問に思う方もいると思います。一見どこも悪くないように見えますが、経年劣化に伴いいろいろな所で痛みや不具合があったり、法律の改正によって交換や更新が必要となっています。そのため、予防保全により安全を確保し、皆様が安心して利用して頂けるようにする必要があります。

文学座

文学座からはala Collection シリーズ『エレジー』、文学座公演『越前竹人形』、そして可児市文芸祭文芸祭朗読会にも出演された山本郁子さんにインタビューしました。



山本郁子
〈俳優〉

いつも笑顔で迎えてくださる可児市の皆様、いかがお過ごしですか？世界中が大変な苦難となつていますが、みんな一緒に乗り越えてゆかないですね！文学座も4～5月のアトリエ公演『熱海殺人事件』、6月の本公演『昭和虞美人草』が中止になりました。私はアトリエ公演で稽古を3週間積み重ねた所でストップとなつてしまいました。その時は茫然としましたが、前を向いてプラスに考えることにしました。劇場では、お客様が安心して集中して舞台を楽しんでいただきたいので、その日が来るまで、この熱い想いを温めておこうと思います。ご期待ください。

山本さんは可児市にたくさんお越し頂いていますが、思い出や印象に残っていることは。

私が初めてアトラに伺ったのは、2002年の二兎社公演『新・明暗』でした。とても客席が近く観やすく、息遣いまで感じられる、素敵な劇場だなあと感じたのを覚えています。そして2011年には、平幹二朗さん主演のala Collection シリーズ vol.4『エレジー』で可児市に1カ月半滞

在し稽古をして、舞台を創りました。毎朝、鳥の声で目覚め、窓を開けると緑と土の匂いがして、一日の始まりを感じ、市民サポーターの皆様に差し入れて頂いた野菜で朝食を作った思い出があります。その後も訪れる度に、故郷に帰ってきたような懐かしい感情が湧き上がります。毎回、市民サポーターの皆様が元気に笑顔で温かく迎えてくださるので、何うのが楽しいかな可児市です。



▲『エレジー』千秋楽に市民サポーターの皆さんと



▲2016年度文学座公演『越前竹人形』舞台の様子

ステイホーム期間、劇団や山本さんご自身はどうな過ごし方をされていましたか。

劇団では、「BUNGAKUZA at Home」という新たな取り組みを立ち上げました。文学座メンバーが、朗読や読み合わせ、トーク、漫才などオンラインで発信しています。公演の時とはひと味違う俳優の姿なども見られますので、どうぞ、お家でも文学座をお楽しみください。そして私自身は、緩い筋トレとヨガを始めました。いつも長続きしなかったのですが、今回は続いていて少し筋肉がつかまりました。体力をつけて、免疫力アップしていきたいと思っています。

最後に可児市の皆さんへ向けてメッセージをお願いします。

皆様も、不安な日々をお過ごしのことと思います

が、いつか必ずまたお会いして、舞台を心から楽しんで頂けますように願っています。そして可児市の皆様にまた素敵な笑顔が戻りますように！

文学座からは、可児市出身で文学座準座員の川合耀祐さんにもインタビューしました。



川合耀祐

▶「よっちゃん」の愛称で小学生からala大型市民参加公演に出演。取材時は地方公演帯同中で舞台セットにて撮影。

文学座研究所の研修生から、今年度、見事に演技部の準座員に昇格されましたね。

非常に狭き門で、しかもアトラと結びつきが強い劇団の準座員に選ばれたことがとても嬉しかったです。公演などでまた地元の演劇に携われる機会があるかもと思うと楽しみでもあります。

今年は誰もが想定外の状況ですが、今だから故郷に伝えたいメッセージをお願いします。

コロナの影響で活動に制約が掛かり大変ではありますが、それでも出来ることはないかと、同期メンバーとアニメーションも取り入れた動画をネット配信したり、「自分たちの表現で楽しませたい」というモチベーションで試行錯誤しています。僕も挑戦し続けますので、可児市の皆さんも前向きに一緒に乗り越えていきましょう！



『BUNGAKUZA at Home』
岸田國士や久保田万太郎など文学作品を自宅
で気軽にラジオを聴く
感覚で楽しめます。



アトラで上演された文学
座作品の劇評はこちら。

③ 快適に利用しやすく

- ▶ トイレの洋式化
- ▶ オストメイトの設置
(人工肛門や人工膀胱保有者の方にも対応できる設備)

トイレにおいては、今まで設置のなかったオストメイトを1階ロビーフロアの多目的トイレに設置し、障がいや支援の必要な方も利用しやすいように改修します。館全体のトイレでは生活様式の変化に合わせて洋式化を図っていきます。また、階段手すり設置、スリップ防止などの安全対策を行います。



② 防災・安全対策のため

- ▶ 劇場・ロビー天井落下防止対策
- ▶ 屋外ウッドデッキ更新

東日本大震災において天井落下の被害が多くあったことから、平成26年に建築基準法施行令が改正され、規制強化が図られました。そこで特定天井（高さ6メートル超、面積200㎡超）にあたる主劇場・小劇場・ロビーフロア部分の天井改修を行います。また腐朽が著しい屋外のウッドデッキも安全のために更新します。



館長エッセイ

essay

折々の人たち。

可児市文化創造センター館長兼劇場総監督 衛 紀生

「コロナ禍で「死」を意識せざるを得ない日常で、現在の自分に影響を与えてくれた折々の人々のことを思い起こすことが多くなりました。気鬱の病で入院をしていた20代、病院近くにあった崩れかけた古書店で偶然出会った『底辺の美学』。そこに書かれている最底辺に生きた名もなき人々への、著者の松永伍一先生の眼差しは、マルクス青年だった私の心を粉々に打ち砕きました。ご縁あって私は、上石神井の先生のお宅に伺ってお話しする知己を得、その後大学を辞めて、虫プロダクションを辞めて、沖縄の先島諸島のニライカナイ伝説と土俗宗教と神司のオバア達に会いたくて4か月半の旅に出て、その報告に伺った折に、思い立つたら後先考えず行動してしまう私を、「君はナルシストなんだよ」と笑っていらつしました。「思い込んだら命がけ」の性癖はきつと死ぬまで変わらないのでしょうか。

40才を過ぎて、物書きの仕事が減らし年収が10分の1になりながら地域に出て、「経営」をから学び始めた時に会った、慶応義塾大学名誉教授の井関利明先生も忘れられない方です。私がアールで実践してきた経営手法は、「マーケティングと経営においては、時代の変化と共に自分を変化させなければ」という先生の柔軟な考え方から学んだものです。そして最後は、50才になる頃に英国リーズで会った当時ウエストヨークシャー・ブレイハウスの経営監督だったマギー・サクソンです。彼女に出会わなかったら、私はおそらくこの昔に「劇場」に失望していたと思います。彼女のリーズ市民と劇場職員に向けられる眼差しに、私は松永先生と同質の人間に対する優しさを感じました。アールを「人間の家」にしようと考えた背景には、「生き方」を変えてくださった松永先生と、それを経営者として劇場人として間違っていないと確信させてくれた井関先生やマギーがいたからだ、コロナ禍であらためて思いました。

可児市文化創造センター休館中の利用申請について

可児市文化創造センターは、大規模な改修工事を実施するため、現在、休館しております。【休館期間】 2020年9月30日(水)まで

◎主劇場、小劇場、レセプションホール、会議室(旧控室1)、控室(旧控室2)、演劇練習室、木工作業室は、引き続き改修工事のため 2021年1月7日(木)まで使用できません。

※ 2021年1月8日(金)～10日(日)は、市行事およびメンテナンスのため、一般への貸出はおこないません。

休館中の利用申請は臨時受付窓口で

【受付窓口】 可児市役所 西館1F 【※土日祝を除く】 【受付時間】 8/3(月)～9/30(水) ⇒ 9:00～12:00

利用を希望する年・月		受付期間(土日祝を除く)
【劇場及びギャラリー等】	【その他の施設】	
2021年4～6月分	2020年7～9月分は休館中のため申込不可	受付中
2021年7～9月分	2020年10～12月分	受付中

※ 2021年4月1日以降のご利用から利用料金が変わります。⇒



▲ 仮囲いで覆われたala外観



▲ 主劇場
1階客席を全て取り外し足場が組まれ天井改修をしています。



▲ 1階 主劇場ホワイエ方向
ロビーにも足場が組まれ天井改修をしています。

可児市文化創造センター【愛称: ala(アール)】

〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139

✉ info@kpac.or.jp

TEL.0574-60-3311 FAX.0574-60-3312

▶ 電話対応 9:00～17:00(土日祝を除く)

